

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況 (1) 国際戦略総合特区(2/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区 (北海道、札幌市、江別市、函館市、帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、北海道経済連合会)	4.8	4.9 進捗度 ・特区が関与した食品の輸出入額・輸入代替額等 118% ・企業と一次産業との連携プロジェクト数 100% ・機能性素材の新規研究開発プロジェクト数 97% 等	4.1 規制の特例等 ・農業経営改善 自家用貨物自動車活用事業等 財政支援等 ・総合特区設備等投資促進税制 ・総合特区支援助利子補給金等 地域独自の取組 ・商品の競争力強化促進事業等	5.0	<p>・高い水準の目標と同等あるいはそれ以上の成果を上げることができており、独自の表示制度、センター・オブ・イノベーション(COI)プログラムの活用などの成果も高く評価される。</p> <p>・事業者と行政の取り組みが良く同期して成果をあげている。</p> <p>・既存の規制の特例措置以外に国内外への輸送の面で障壁となっているものがないか、新たな規制緩和の提案をぜひ検討してもらいたい。</p> <p>・東アジア地域でも認知度の高い、「北海道」の優れたブランドイメージを活かすために、販売促進のための輸出ルートの開拓を国際戦略として行うべきである。現状では、国際輸送の手段の多くを東京に依存しており、東京のキャパシティの中でしか輸出できていない。道内を含めた他の港湾を使用するなどの代替手段を検討すべき。</p>